

十島村 校務D X計画

1 1人1台端末（指導者用）の整備

校務用PCについては、これまでの更新により教員1人1台端末の整備が完了している。

指導用PCについては、WindowsのOSで令和6年度までに、42台を整備してきた。

今回のセカンドG I G Aの端末整備では、児童生徒用として基本OSをChromeで整備する計画である。それに伴い、指導者用タブレットも新たに基本OSをChromeとし、全教員（ALTも含めて）分を整備する計画である。

2 校務のD X化等

十島村では今後、1台の指導者用タブレット端末で校務系・指導系の2系統を構成し、クラウド環境を活用しつつ、校務の効率化を図っていく構想である。

また、鹿児島県では教員全員に県域ドメインによる業務用のメールアドレスが割り振られ、外部との連絡等にも活用されている。

本村は極小規模学校・各島1校の地理的条件のため、大規模な都市部のように校務システムを導入することが費用対効果の面で、なじみにくい点がある。しかし県内の他市町村の校務システムの導入の方向性を踏まえ、今後は検討を進める必要性もある。

これらの点を踏まえつつ、今後は以下の点を配慮して、校務D Xに向けた検討を進めていく。

(1) クラウドサービス活用

Microsoft Teamsをはじめとするグループウェアを活用し、チャットやファイルの共同編集など、協働化を図っていく。また、島内の保護者・寮監や島外の実親との日常的な連絡ツールなど、様々なクラウドサービスに関する調査等を行い、導入の在り方を検討していく。

(2) 校務における生成A Iの活用

十島村の情報教育研修会等における教職員に対する研修や、実践事例の収集・周知等を行い、校務で生成A Iを活用する職員の割合を年ごとに高めていくことを目指す。

(3) ペーパーレス化

会議等においてサーバ等に保存した電子データを閲覧したり、会議前に学校内共有フォルダ等に掲載した資料を読み込み、会議の際にはタブレットで確認しながら情報を共有し、協議が効率的に進むような取組を検討していく。（事前に紙媒体を配布し、紙とマーカー等による協議形態から、抜本的に形態を変えていく。）

また今回の指導者用タブレット整備に伴い、保護者連絡アプリによる教員と保護者間の情報や連絡のやりとりのデジタル化、児童生徒への各種連絡や家庭学習等のデジタル化、校内の職員間の情報共有化、村内の学校間の情報や資料の、デジタルによる共有化を図るとともに、研修資料や会議資料をアーカイブ化することにより、ペーパーレス化を図っていく。